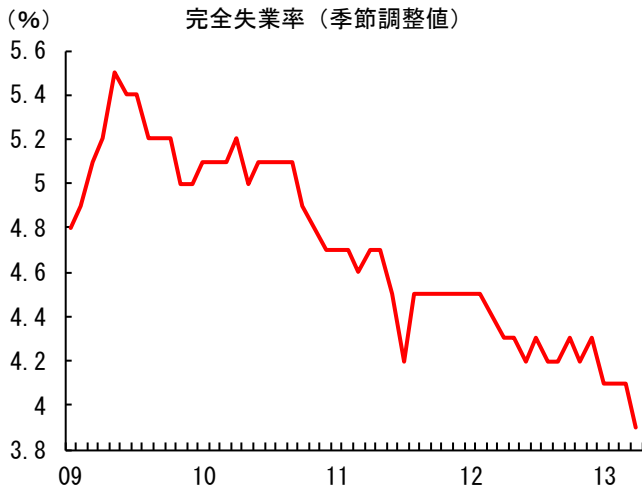


テーマ：雇用関連統計（2013年6月）  
～雇用環境は緩やかに改善～

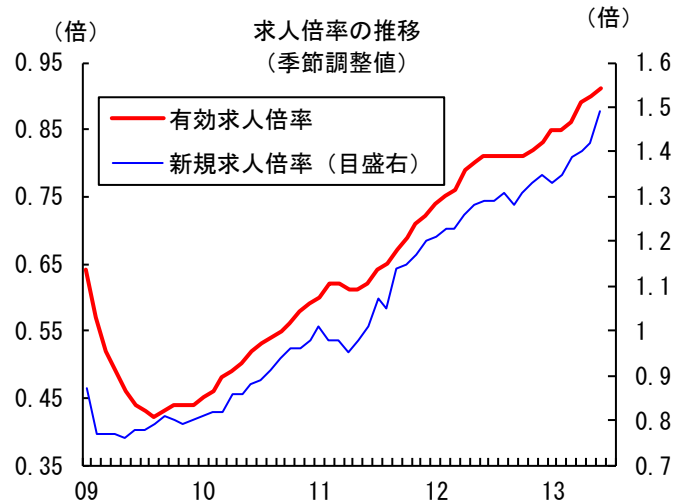
発表日：2013年7月30日（火）

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## ○雇用環境は緩やかに改善。先行きも改善の公算大

総務省から発表された2013年6月の完全失業率は3.9%と、前月（4.1%）から0.2%ポイント改善した（市場予想：4.0%）。3%台の失業率は、2008年10月以来のことになる。今月は、非労働力人口が増加したことで失業率が低下している面はあるが、就業者数、雇業者数とも持ち直し基調にあり、雇用環境の緩やかな改善を感じさせる結果である。

なお、季節調整済みの就業者数は前月差▲1万人（5月：+2万人）、雇業者数は同+7万人（5月：+3万人）だった。就業者数は僅かに減少したが、4-6月期で見れば就業者数、雇業者数とも小幅増加している。単月の振れはあるものの、トレンドとして徐々に持ち直していると判断できる。景気の遅行指標である雇用についても、景気回復の波及がみられつつある。

厚生労働省から公表された13年6月の有効求人倍率は0.92倍と、前月から0.02ポイント改善した。有効求人数も前月比+1.2%（5月：+2.2%）と9ヶ月連続で増加している。また、新規求人倍率は1.49倍と前月（1.42倍）から0.07ポイントもの改善となった。これは2007年8月以来の高水準。新規求人数も前月比+2.2%（5月：+2.1%）と大幅な増加が続いており、内容も良好だ。有効求人数、新規求人数とも、明確な増加傾向にあると判断される。

昨年末以降、景気が速いペースで持ち直していることが、こうした求人増加に繋がっているとみられる。雇用の動きに先行する求人動向で改善の動きが続いていることは、今後の雇用増に向けて心強い。先行きも、景気回復の効果が波及することで、雇業者数は徐々に増加ペースを速めていくだろう。

雇用・所得環境は依然として厳しいが、雇業者数の持ち直し、夏のボーナスのプラス転化など、状況は少しずつ改善に向かっている。この点は、今後の個人消費にとって好材料だ。